



東日本大震災

久慈市の記録

2011.3.11～2012.3.11

久慈市

久慈市災害対策本部

久慈市東日本大震災復旧復興本部



東日本大震災

久慈市の記録



平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災発生。マグニチュード 9.0 という世界最大級の地震は、巨大な津波を引き起こし、このまちから数え切れないほどの財産と、かけがえのない命までも奪い去りました。

数十年後、100 年後も決して忘れてはならない未曾有の大災害。おびえるのではなく、備えるために。支え合い、全市民の力で復興を果たすために。震災による甚大な被害と、力強く前に進む人たちの姿を、皆さんの胸に刻んでもらえればと思います。

写真…勢いよく陸地にぶつかり、大きなしぶきを上げる津波（平成 23 年 3 月 11 日 15 時 33 分ころ・久慈湊地区金刀比羅神社から撮影）



久慈を襲った大津波 驚異と惨状

平成 23 年 3 月 11 日（金）14 時 46 分ころ、三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の地震が発生し、久慈市でも震度 5 弱を観測しました。地震により市内全域で停電と断水が相次ぎ、14 時 49 分には大津波警報が発表。約 40 分後、大津波が沿岸部に襲い掛かりました。何度も何度もまちを襲い、漁港や工場、家屋などをのみ込んだ津波。信じられない、信じたくないような惨状が沿岸部に広がりました。



15:32 ころ。勢いを増しながら迫る第 1 波



15:32 ころ。海の端から端までが大きな壁に



15:34 ころ。防潮堤を越波。背後にはすぐ第 2 波が



15:36 ころ。第 2 波襲来。海面はさらに上昇



17:32 ころ。津波が遡上し、はん濫寸前となった久慈川

驚異

惨状

半崎 1
久慈湊 2
諏訪下 3
玉の脇 4
久喜 5



1／半崎地区。ほぼ全ての地上施設が壊滅した久慈国家石油備蓄基地
2／久慈湊地区。家屋などの倒壊、損壊が続出した
3／諏訪下地区。防潮堤を越えて打ち上げられた漁船。周囲一帯ががれきの山に
4／玉の脇地区。全壊した漁港施設。漁船や漁具なども津波に奪われました
5／久喜地区。12mの防潮堤をも越えた津波は、深い爪痕を残しました

12mの防潮堤をも越えて大津波はまちを襲った



募る不安、生活は混乱

ただならぬ危険を察知し、多くの人が迅速に避難。しかし大津波の驚異に避難者は不安と恐怖を募らせました。また、地震発生直後から停電や断水などが続き、燃料や食料も不足。”日常”は一変し、全市民の生活が大混乱に陥りました。



1・2／久慈湊地区の金刀比羅神社。最小限の荷物を手にし、すばやく避難した住民。誰もが不安と恐怖で表情をこわばらせていました（3月11日）
3／市全体の避難者は最大で2,916人。福祉の村には、千人近くが避難しました（3月11日）



- 1／スーパーなどでは、水やカップラーメンなどの保存食は売り切れ。電池や医薬品など物資の不足が続きました（3月16日）
- 2／電気の大切さを痛感。停電で暗く寒い夜が続きました（3月12日）
- 3／燃料不足で大混乱。わずかな燃料を求める車が1キロ以上にわたって列をつくりました（3月17日）
- 4／水すら出ない。自衛隊の給水車の前に列をつくる市民（3月12日）



不安 混乱

支え合った市民の絆



厳しく困難な状況に陥った久慈市。しかし、困難を乗り越え、不安を和らげるために、私たちは自然に支え合いました。がれきに覆われた沿岸部や避難所、隣近所などでも見られた「支え合い」。そこには確かな市民の絆がありました。

絆

- 1 / 必死になって行方不明者を捜索する消防団員。水門閉鎖や避難誘導などに加え、自らの地域も支え続けた消防団活動は、使命感と地域愛に満ちていました（3月19日）
- 2 / 久喜公民館。避難者などのため、食事を準備する皆さん（3月17日）
- 3・4 / 被災者にエールを送る災害ボランティア（3月21日）



- 5・6 / 被災者のために一。ほこりにまみれながら、がれき撤去や家の片付け作業に汗を流す災害ボランティア（5・3月24日、6・3月19日）
- 7 / 募金を呼び掛ける高校生ら。多くの善意が集まりました（3月21日）



世界、全国からの熱い支援

世界、全国から熱い支援が久慈市に寄せられています。自衛隊や消防、警察などは、危機を救うために全国から駆けつけてくれました。物資や義援金のほか、被災した人たちを元気づけ、癒やそうとする活動も。温かい心と願いがこもった支援活動は多岐にわたっています。

写真…半崎地区で、行方不明者の捜索や漂流物の撤去作業にあたる緊急消防援助隊（3月19日）



物資の搬送や炊き出しなどを行った自衛隊（3月17日）



全国から届けられた支援物資（3月16日）



電気の復旧に向けて懸命に作業（3月19日）



必死の形相で作業にあたる消防援助隊（3月19日）



市外国語指導助手も心を込めて作業（3月24日）



全国から駆け付けた車両（3月14日）



小学校などを訪問した、さかなクン（4月13・14日）



闘牛で縁のある市町村からも義援金（6月12日）



学習院大学の学生も支援活動（7月18－22日）



N 響復興支援コンサート（8月9日）



二十山親方や春日野部屋の力士が励まし（8月15-22日）



出前講座で久喜小を訪れた滝川クリステルさん（9月13日）



善意の結晶 函館義援船

函館市内漁業協同組合長連絡協議会と函館市から無償で提供された磯舟 228 隻。函館の善意の結晶は、漁業者に再起への力を与えてくれました（6月5-8日）

がんばれ東北!! がんばれ久慈!!

復旧、復興へ一歩ずつ

多くの支援に励まされながら、久慈市は復旧・復興に向けて一歩ずつ歩みを進めてきました。沿岸部を埋め尽くしたがれきなどは、いち早く撤去。復興を果たすための課題はありますが、一日も早い生活と産業の立て直しを目指し、全力で取り組みを進めています。

写真…平沢地区の仮置き場に集積されたがれき（4月8日）



1 2
3



- 1／被害は地上だけでなく海中にも。港湾、漁港機能に大きな影響を及ぼした沈下がれきの撤去作業（5月20日）
- 2／旧長内中学校敷地内での応急仮設住宅の建設作業。このほか仮設住宅は旧久慈水産高校敷地内にも整備しました（4月21日）
- 3／壊滅的な被害を受けた沿岸部。がれきを撤去し、急ピッチで応急復旧工事を進めました。現在では、仮設の作業場なども漁港周辺に整備されています（4月8日）
- 4／復興と新たなまちづくりを進めるための市復興計画。地域と意見を交わし、策定作業を進めました。久慈市は県内市町村に先駆けて7月22日に同計画を策定しました（7月6-15日）
- 5／復興のシンボルの一つとなる三陸沿岸道路の中心杭設置式。早期完成の期待がかかる復興道路が始動しました（平成24年2月19日）



久慈湊地区



玉の脇地区



小袖地区



久喜地区



がれきで覆われた惨状

迅速ながれき撤去作業





私たちは負けない

震災後も衰えない強い意志と使命感。大津波から多くの命を守った消防団。地域愛に満ちたその活動はこれからも続きます





4



5



6

7

1／奮起し、漁を再開。船の上は漁業者の熱意と決意であふれていました
2／困難の中、5月5日から開催した二子朝市
3／5月に早期再開を果たした市漁協冷凍工場

4／伝統を絶やさず実演。小袖北限の海女の会
5／ゼロから再出発を果たした「もぐらんぴあ」
6／海に懸ける覚悟。アワビ漁に臨む漁業者
7／避難意識の高まりが感じられた津波避難訓練



やるしかない。甚大な被害を受けながらも再起に向けて立ち上がった多くの人たち。その姿は力強さを感じさせるものでした。これまでも久慈市は、津波など多くの災害や困難を乗り越えてきました。私たちは負けない。大震災にも屈しない。全市民の力と思いを一つにし、前に進んでいきましょう。

大震災に屈しない

みなぎる久慈市の底力。復興への願いが結果した久慈秋まつり。全市民の力と思いを一つにすれば、きっと復興も果たせるはずです



資料 久慈市の被害状況 (平成 24 年 1 月 31 日現在)

津波の浸水範囲



被害状況の数値

1. 人的被害

死亡	行方不明	重傷	軽傷
4人 (うち1人は市外で被災)	2人	2人	8人

2. 住家・非住家被害

地区名	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
合計	355 (65)	89 (32)	410 (180)	394 (291)	1,248 (568)

※棟数は住家・非住家の合計。()内は住家のみの棟数

3. 被害額

区分	概要	被害額
商工関係	商業関係 57 社、工業関係 49 社、計 106 社	149 億 5,267 万円
水産関係	公共施設 8 カ所、民間施設 217 カ所、漁船 575 隻ほか	89 億 4,282 万円
住家・非住家	1,248 棟	42 億 1,438 万円
漁港施設等	13 カ所	10 億 6,450 万円
観光施設	8 カ所	8 億 9,898 万円
林業関係	4 カ所	4 億 1,300 万円
土木施設関係等	道路 15 路線、下水道 3 カ所、公園 3 カ所ほか	2 億 5,413 万円
農業関係施設	施設等 2 棟、家畜等 1 式、農作物等 4 カ所ほか	1 億 4,947 万円
消防施設	屯所全壊、防災行政無線屋外拡声子局倒壊ほか	7,430 万円
医療衛生施設	上水道 14 カ所、衛生施設 2 棟	7,381 万円
通信関係	7 カ所	2,626 万円
社会教育・文化・体育施設	2 カ所	1,936 万円
防犯・交通・衛生関係	40 カ所	526 万円
社会福祉施設	3 施設	61 万円
学校関係	6 校	60 万円
合計		310 億 9,015 万円

※各項目の金額は 1 万円未満を四捨五入しています

津波の高さと浸水面積

●津波関係

波高	遡上高	河川遡上
8.6m (気象庁・久慈港)	27m程度 (市調査・久喜漁港)	約 4km (市調査)

●浸水面積 3.67km² (市調査)



全壊した地下水族科学館もぐらんど



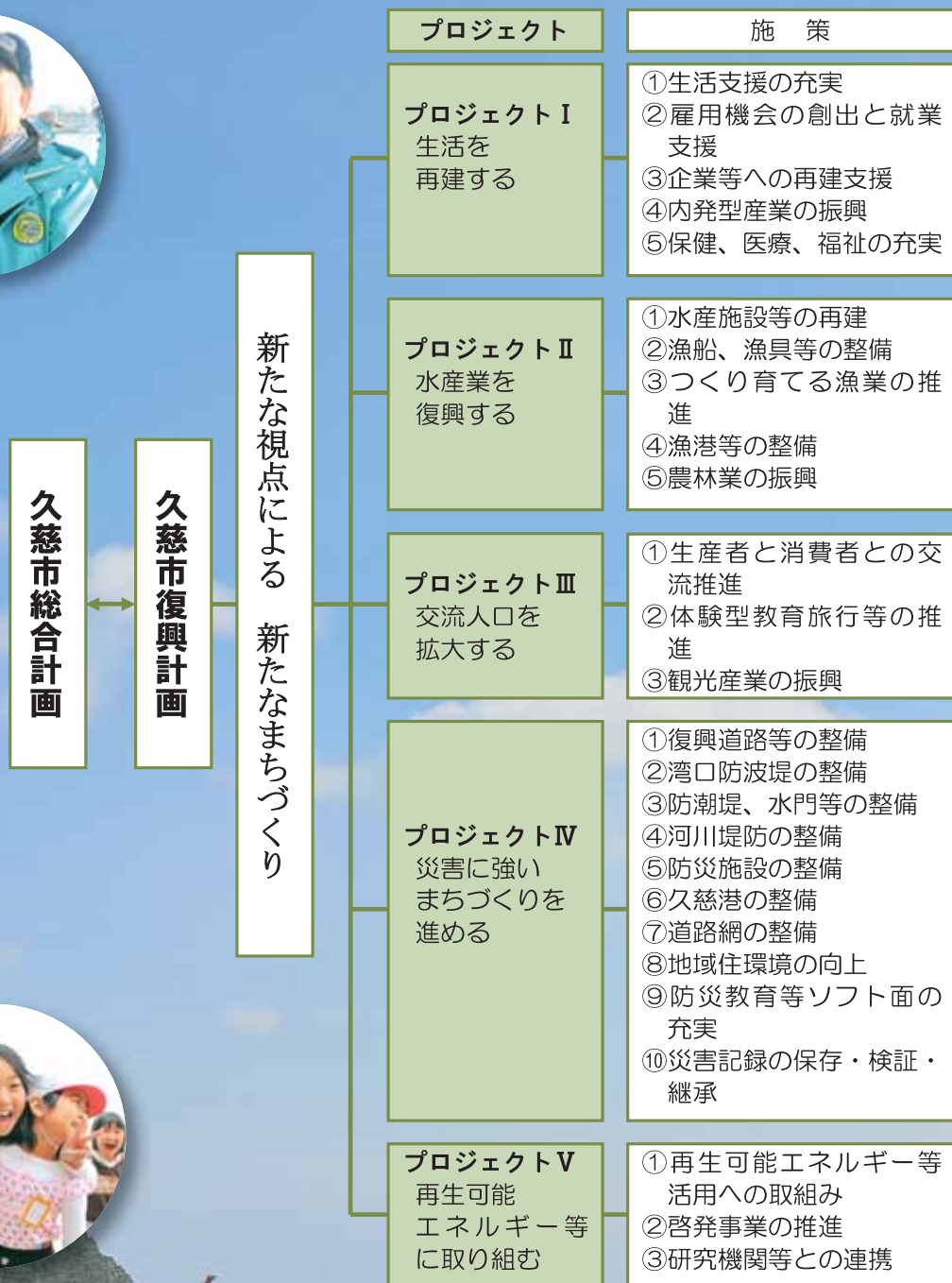
大きな被害を受けた市営魚市場



著しく損壊した北日本造船㈱久慈工場

復興への羅針盤

計画の体系図



平成 23 年 7 月 22 日に策定した「久慈市復興計画」。この計画は、東日本大震災の被害から一日も早く立ち直り、前進していくための、まちの羅針盤となるものです。これまで以上の久慈市を築き上げるため、計画目標には「新たな視点による新たなまちづくり」を設定しました。

計画期間は平成 23 年度から平成 32 年度までの 10 年です。このまちの復旧・復興、そして飛躍を果たすために、久慈市総合計画などと連動させながら、生活や企業の再建支援、水産業の復興、防災面の強化など、各種事業を全力で推進していきます。

追悼と復興への決意。さまざまな思いをかみしめる出席者



祈り

港に広がった優しく
温かい光



久慈港岸壁で「鎮魂と復興」希望の灯りをつくる会を開催。小・中学生や有志が心を込めて作った3,800個のキャンドルに火をともし、犠牲になった方々の冥福と、まちの復興を祈りました。

「鎮魂と復興」希望の
灯りをつくる会

平成24年3月11日



復興へ
一丸

東日本大震災から一年
決意と祈り



平成24年3月11日
久慈市東日本大震災
復興祈念式

久慈市東日本大震災復興祈念式を市漁業協同組合で挙行。出席者は悔しさや悲しさなどの思いを胸に、犠牲になった方々を追悼し、復興に向けて全市民一丸となって突き進むことを決意しました。



決意

思いを込めて献花
する出席者



「3・11」などの形に並べられたキャンドル。
連なる光に多くの人の思いが繋がります